

<目指せ！ 1等米比率90%以上！！>


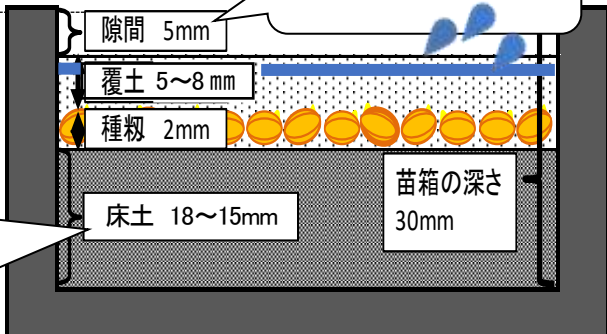
コシヒカリの播種は4月26日頃から！ 田植えは5月15日頃を中心に

☆育苗計画の目安 育苗日数(播種から田植日まで)は19日間以内を目安に

消毒	浸種開始	播種	田植え	(育苗日数)	出穂期
4/6(土)	4/7(日)	4/19(金)	5/10(金)	(21日)	7/31頃
4/15(月)	4/16(火)	4/26(金)	5/15(水)	(19日)	8/3頃
4/24(水)	4/25(木)	5/3(金)	5/20(月)	(17日)	8/7頃

播種～田植日までの育苗日数が長い「老化苗」を移植すると初期の分けつが減少し、収量に影響します。育苗期間が長くなり過ぎないように注意しましょう！

☆育苗のスケジュールと作業内容

月日	作業	温度管理	作業管理のポイント	比重選液の作り方の目安																		
4/15	比重選 種子消毒	水温 10～15℃を 確保	①比重選で種籾を厳選 ・病気や発芽不揃いをしっかり予防する。 ②種子消毒を徹底し、病害の発生を予防 ・モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬する。 (水温10～15℃を維持！) ・消毒中は、種籾袋を2～3回上下に動かし、種子を完全に浸漬する。 ・消毒液の使用は1回限りとし、繰り返し使用しない。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種籾</th> <th>比重</th> <th>硫安 (水10ℓに)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うるち</td> <td>1.13</td> <td>2.5kg</td> </tr> <tr> <td>もち</td> <td>1.08</td> <td>1.5kg</td> </tr> </tbody> </table>	種籾	比重	硫安 (水10ℓに)	うるち	1.13	2.5kg	もち	1.08	1.5kg									
種籾	比重		硫安 (水10ℓに)																			
うるち	1.13	2.5kg																				
もち	1.08	1.5kg																				
4/16	浸種		③浸種は積算温度を十分に確保 $水温 \times 日数 = 積算温度 120^\circ C \text{ 程度}$ ・催芽を揃えるため水温は10～15℃とし、籾容量の2倍の水に浸漬する。 (浸種を開始した初日の水温確保(12～13℃)が重要) ・水交換(2日に1回)を行い、酸素不足を防ぐ。 ・浸種期間の後半は、必ず籾を確認し、芽が動いていたら浸種を終える。	早生・中生品種の浸種の目安 水温 浸種日数 10℃ → 12日間 15℃ → 8日間																		
4/25	催芽	育苗器温度 28～30℃で 20～24時間	④芽が伸び過ぎないように、こまめにチェック ・催芽を揃えるため、1日2～3回袋を反転させる。 ・均一に播種するため、種籾の水切り(脱水)は十分に行う。 (籾が手に付かない程度にまで陰干しを行う)	種子消毒は確実に！ 令和6年用種子は登熟期間の高温により休眠がやや深く、芽のそりがばらつく傾向があることから、平年に比べ浸種を1～2日程長くする(浸種積算の目安120℃とする)																		
4/26	播種	育苗器温度 30℃で 2～3日	⑤播種は「うす播き」乾籾120g/箱が基本  ・加工床土は 床土:18mm 覆土:5mm ・軽量培土は 床土:15mm 覆土:8mm	育苗箱のイメージ  隙間 5mm 覆土 5～8mm 種籾 2mm 床土 18～15mm 育苗箱の深さ 30mm																		
4/29	搬出 緑化		葉焼け注意！ ハウス内温度 昼:25℃以下 夜:10℃以上	⑥育苗器の温度は30℃が適温 こまめに温度や出芽状況をチェック ・事前にサーモスタットの温度計を確認する。	日射が強くハウス内が高温になる場合は搬出直後でも換気する																	
5/1	硬化	ハウスの強風対策は万全に！ 強風が予想される場合は育苗ハウスを点検し、必要に応じて補強しましょう！	⑦芽の長さが1cmに揃ったら搬出 ・搬出時に覆土を落ち着かせる程度に必ずかん水する！ ・原則、昼間は搬出直後から換気を行う。 ・緑化後、速やかに被覆資材をはずす。																			
5/15	田植え		⑧ハウス内の温度が25℃以上にならないよう換気を徹底 かん水は朝にたっぷり！日中は床土の乾きに応じて！ ・荒天でない場合は、夜間もハウスを開け換気を行う！ 育苗期間中の病害対策	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病害</th> <th>使用薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>散布量</th> <th>防除時期</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白カビ、青カビ</td> <td>ダコレート水和剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種14日後まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>ムレ苗 苗立枯病</td> <td>ナエファイン フロアブル</td> <td>1000倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種時から緑化期</td> <td>2回以内</td> </tr> </tbody> </table>	対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数	白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内	ムレ苗 苗立枯病	ナエファイン フロアブル	1000倍	500cc/箱	播種時から緑化期	2回以内
対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数																	
白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内																	
ムレ苗 苗立枯病	ナエファイン フロアブル	1000倍	500cc/箱	播種時から緑化期	2回以内																	

春の土づくり

～いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！～

高温や多雨などの気象変動に打ち勝つ米づくりには、強い稲体づくりが大切であり、その土台となる「根」を育てる「土づくり」が重要です。土づくり資材や有機物の施用、深耕による「春の土づくり」を行い、地力の向上に努めましょう。

☆土づくり資材の施用

- ・ケイ酸は稲の茎葉を丈夫にし、葉を直立させる効果があるほか、病害虫に対する抵抗性を高めるなど、収量・品質の向上に効果の高い成分です。また、近年、発生が増えている「ごま葉枯病」は、ケイ酸分の他、カリ、鉄分含量などの不足による地力の低下により発生が増加します。
- ・腐植が少ない砂質や砂壤土のほ場では、「**発酵鶏ふん**」などの有機物を積極的に施用し、地力の維持や向上（カリ等の補給効果有り）に努めましょう。
- ・**土づくり資材の施用は継続する**ことで効果が現れます。**昨年の秋に施用していない場合は、耕起前に土づくり資材を確実に施用しましょう（春施用）。**

主な土づくり資材の施用の目安（春施用）

資材名	施用量 (10a 当たり)	特性等
鶏果良好	60～100kg	ケイ酸、アルカリ分、遅効性カリ、リン酸、苦土などが一度に散布できます。
シンキョーライトP	60kg	含有成分のゼオライトは保肥力を高め、根張りを良くし、安定収量と品質向上につながります。
スーパーけいさん鉄	60～100kg	ケイ酸のほか、鉄分を多く含んだ資材で、アルカリ分も高く、土壌の酸度矯正につながります。ごま葉枯病が多発するなど、鉄不足のほ場に適しています。
発酵鶏ふん	(春施用) 75～100kg	腐植含量を高め、カリ等も補給できます。

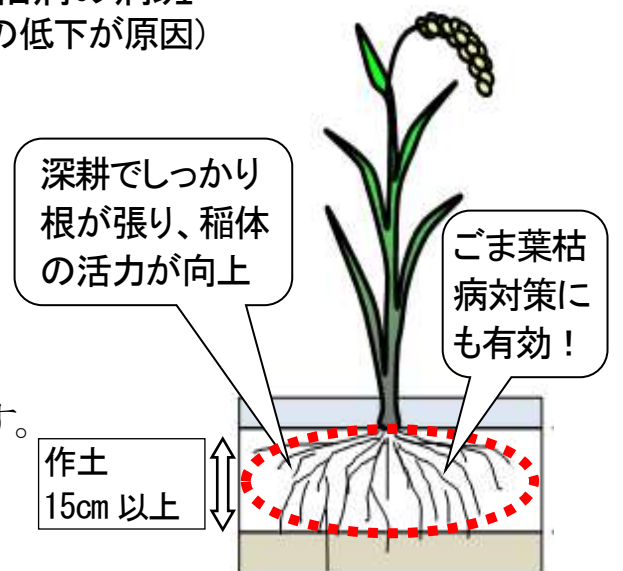
※発酵鶏ふんを春に施用する場合は、基肥を窒素成分で1～2kg/10a程度減肥する。
(例) Jコートコシヒカリ1号（窒素成分21%）
40kg/10a 施用の場合は、30～35kg/10a程度に減肥する。



ごま葉枯病の病斑
(地力の低下が原因)

☆深耕の実施

- ・深耕によって作土層を確保すると、根圏が広がり根が十分に伸長します。深く伸びた根は収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質の向上につながります。
- ・耕起の際は、トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、**作土の深さ20cmを目標に、15cm以上の確保**を目指しましょう。



令和6年 春の農作業安全運動 3月1日～5月31日

「農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底」

あなたも農作業中に「ヒヤリ」とした経験はないですか？
春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。
農場や道、用水路など危険箇所を事前に確認し、余裕をもった作業計画を立て、事故を未然に防止する対策を徹底しましょう。

全国でトラクターの転落・転倒事故が多発しています。



富山市農協ホームページで営農情報の提供を行っています

<http://www.ja-toyamashi.or.jp/jouhou/> こちらで検索！

JA 富山市 営農情報

検索